セルフモニタリング報告書（令和5年度分）

令和6年4月30日

施設名　苫小牧市文化交流センター
指定管理者名　労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
所管課名　教育部　生涯学習課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価
1　事業計画の達成度		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	施設の設立主旨を踏まえ独自・自主事業、一般貸館ともに計画に基づき管理運営した	(A)・B・C・D・E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	交流ひろばのフリースペース設置、路面側の電飾などで利便性と施設イメージ向上を図るなどしてコロナで減少していた利用の増につなげた	(A)・B・C・D・E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		A・B・C・D・E
自主事業は計画どおり行われたか。	恒例事業に加えXmas ロビーコンサートなど新規事業も開催した	(A)・B・C・D・E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	地域の方と連携した「私たちの地域をどうしたら委員会」や「あいボラ企画」で高校生の発案を取り入れた講座、事業を開催した	(A)・B・C・D・E
2.　利用者の満足度		
利用者の満足が得られているか。	利用者アンケートでは 96.7％と高	(A)・B・C・D・E

	い満足度を得た	
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	定期アンケートや意見箱、利用者への積極的な声掛けで意見要望を受け止めている	(A)・B・C・D・E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	ウォーム洗浄便座の要望を受け今年度女子トイレを更新、次年度は男子トイレの予定 開閉不能となっていた窓３枚は特別枠で修繕 研修の成果で日常の接遇に対する特筆すべき苦情はなかった	(A)・B・C・D・E
３　管理運営の効率性		
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	省エネやペーパレス化の推進等日常的に職員への意識付けを行いそれらを浸透させた	A・(B)・C・D・E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	再委託は市内業者を優先的に採用し経費は情報収集の上適切かつ最小を心がけた	A・(B)・C・D・E
収入増加のための取組はされているか。	再委託は市内業者を優先的に採用し経費は情報収集の上適切かつ最小を心がけた	(A)・B・C・D・E
４　適正な管理運営		
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	接遇やクレーム対応、救命救急研修等で能力向上を図った。	(A)・B・C・D・E

安全対策（事故防止等）は十分だったか。	舞台吊物や昇降機をはじめ館内外の定期点検に加え５類移行後もコロナウイルス感染防止対策を適切に実施	(A)・B・C・D・E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	企画書に沿った人員を配置、さらに責任者常駐のため副館長は２名配置	(適)・不適
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	条例・規則に基づき平等利用、減免、還付も含め適切に処理	(適)・不適
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	改正保護法に沿い紙情報、電子データともに厳重に管理	(適)・不適
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	処理方法及び管理体制の確立と日々の多重チェック、上部組織による点検で適正に処理	(適)・不適
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適時に適切な法定点検及び保守を実施	(適)・不適
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	仕様に則り文書・備品を適正に管理し台帳を具備	(適)・不適
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	万事法令及び協定書に則り適正に管理運営	(適)・不適
５　地域貢献		
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	館員は地域から雇用し再委託も地元を優先し地域貢献を図っている	(A)・B・C・D・E

A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。

B：目標、事業計画どおりの取組がされており、管理運営状況は良好である。

C：概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

自己評価　★★★★★

（最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。）

[4 適正な管理運営]において不適がある場合、その理由と今後の対応について

指定管理者の自己評価（全体を通して）

生涯学習活動と社会教育の推進及び文化の振興と市民の交流の拠点であることを踏まえ、公共施設を運営する団体として、利用者が「安全」、「公平」かつ「心地良く」利用できることを根底に据えて施設運営に取り組んだ。

1　利用者目線、利用者ファーストの経営

（1）　Ｗｉ-Ｆｉを全室に拡充しリモート勤務やリモート会議など平日日中の少人数利用が可能なことをアピールして利用増を図った

（2）　サークル活動の PR と地域貢献を狙いとして、交流ひろばで Xmas ロビーコンサートを開催し来場者は 100 人を超えた

（3）　札幌や本州など遠隔地からの利用に、メールと銀行振込での対応で利便性向上を図った

（4）　利用者や地域の声を館経営と地域発展に活かす狙いで「私たちの地域をどうしたら委員会」を開催し有効な意見交換ができた

（5）　「あいボラ企画」で高校のボランティア部と共同で「手話」や「護身術」、「怪談会」などを企画、開催した

2　将来の利用者開拓につなげるため、低年齢層の利用促進を図った。

（1）　クリスマス展やひなまつり展に地域の園児たちの作品を展示して独自事業の改善を図った

（2）　自主事業で子どもや若者主体の行事「アイビー探検隊」や「アイビー・フェスタ（ダンスと音楽の集い）」などを開催し多くの子どもたちが参加した

（3）　高校生インターンシップ（職業体験）ではサークルと一緒にフラダンスを踊る体験や事務、清掃業務のほか一日館長などの体験を通じて施設理解の推進ができた

3　まとめ

コロナが５類に移行したとは言え、完全に終息したわけではない中で感染拡大防止と文化活動促進の両立を図る経営ができた。